

地区・教区の連帯の中で — 関東教区はカントウ賞！

マタイによる福音書25章21節

第72期関東教区総会議長、大宮教会牧師 熊江 秀一



日本基督教団の教師となつて30年が過ぎました。正教師となり関東教区の教会に赴任してからは28年目です。関東教区の中で伝道者として育てていただきました。お恥ずかしい話ですが、伝道師として東京の教会に仕えていた時代、同じ地区

の教会との交わりは頭がなく、自分の教会の奉仕だけで手いっぱい、隣の教会に行ったことはありませんでした。自分の教会で仕えれば十分だという思いがあったことは事実です。

それが1995年、関東教区の新潟地区・新津教会に遣わされて、その思いはすぐに崩されました。赴任直後の日曜日が終わった翌日、同じ地区の教師が訪ねて来られました。初めてお会いする先生でした。「新潟地区によく来たね」そう言って励まして下さいました。また複数の先生方から歓迎の電話をいただきました。「新潟地区の交わりはすごい！」と驚かされました。

就任式後、教会は大きな試練に直面しました。教会として約7200万円の負債を返済することを決断することになりました。私自身も揺れ動きました。そんな中、新潟地区から力強い支えをいただきました。新潟地区の互助によって支えていただいたのです。それも当時の地区委員の方々が、ぜひ地区互助を受けなさいと勧めて下さり、実現したのです。新潟1年目の冬は九州・長崎出身の私にとって、雪と寒さに凍える毎日でしたが、心は新潟地区の連帯の暖かさにポッカポカだったことを思い出します。教会も試練の中で一つになり、10年ですべての返済を終えることができました。その時まで地区互助の支えは続きました。地区の祈りに支えられた10年でした。

新潟地区に2004年、新潟水害と中越地震が、

2007年には中越沖地震が起きました。関東教区の支えの中、ボランティアセンターを開設し、被災した教会・伝道所、そして地域と共に歩きました。「にいがた・たがいに」が合言葉でした。関東教区の4役・支援委員は毎月のように新潟に来られ、被災教会を訪ねて下さいました。その中で一つ、また一つと被災した教会が再建し、宣教に仕える姿を共に喜び合いました。関東教区の連帯が、新潟地区の支えとなり、その祈りが力となりました。その連帯は2011年の東日本大震災にも続きました。「関東教区の連帯は豊かですごい！」震災から10年以上がたった今も、それは続いていると確信しています。

関東教区の恵みは一つ一つの教会の顔が見えることです。この教区連帯の柱がナルドの壺献金運動です。自主献金でこれほどの献金がささげられているのは教団でも珍しいものです。これからも小規模教会・伝道所が地域の宣教の拠点として福音の灯をともし続けることができるように、共に祈りを合わせていきましょう。今年もナルド献金目標額が満たされるように力を合わせましょう。

関東教区は日本基督教団の17教区で、面積は北海教区に次いで2番目に広い教区です。宣教の対象である教区内人口は東京教区より多く、最大です。その中にある140教会・伝道所の宣教の使命はとても大きいものです。関東教区の教会・伝道所が連帯し、支え合い、網目のようにつながり合ってこの地の宣教に仕えることを願っています。

10月に教会付属の幼稚園で運動会がありました。運動会の最後に、全園児に金メダルを贈呈しました。がんばった子どもたちのうれしそうな表情が忘れられません。関東教区は神さまからのカントウ賞を目指す教区だと思っています。神さまから「忠実な良い僕だ。よくやった」と言っていたように、共に支え合い、連帯して福音を宣べ伝えてゆきましょう。



正教師登録式を終えて

北本教会牧師 阿部 洋治



正教師登録に至りますまで多くの方々から祈りとご労苦をいただいたことを感謝します。

事の始まりは日本基督教団の教師試験の基準が曖昧にされたことにありました。2002年7月の常議員会は信仰告白を基準とすることを

明確にしましたが、「様々な立場を切り捨てない」という基準を容認して来た教団の歴史を不問にしてきました。しかし、今回、教団信仰職制委員会と関東教区は信仰告白に立つ教会の判断を示して下さいました。

それにしても、正教師としての課題は、これまで以上に、「あなたはわたしを何者だと言うのか」という問いの前に立たされることです。「この岩の上にわたしの教会を建てる」と言われるにふさわしいキリスト告白に立つかどうか問われるのです。それは、ある神学者が記しているように、自分の賢さや力に依存することから回れ右をして、「あなたこそキリストです」と告白しつつ、主イエスの前に逃亡し、跪き、聖書を通してその救いを心の深みに味わい、証し続ける実存として立つか。正教師としての責任はここにあると覚悟しています。

教区書記 小池 正造

第72回教区総会において、「阿部洋治教師の正教師登録に関する件」が、投票数122の内賛成98票で可決されました。これを受けて7月12日に大宮教会を会場に阿部洋治教師の正教師登録式が行われました。

事の発端は、第68教区総会議長報告内に福音主義連合、阿部教師のことが触れられていたことによります。これにより、教区総会は紛糾しこれらの一文を削除することで承認されました。執行部と阿部教師の話し合いの中で、阿部教師は正教師試験を受験され、合格されました。これを受けて常置委員会では、正教師登録の方法を教団信仰職制委員会に諮問し、これを受けて、しかるべき式を行うことの議案を教区総会に上程しました。ただ、新型コロナウイルスの蔓延により、書面総会開催となり、今総会まで待つに至った次第です。



着任してひとこと



深谷教会 ほうが まさみ
法 尙 聖 親



私は2011年秋に、母教会の深谷教会に担任教師として着任しました。そしてこの度、保母光彦主任担任教師の隠退に伴い8月より主任担任教師となりました。

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。」(Iテサロニケ5:16~18)。このみ言葉を心に据え、牧会に励みたいと思っております。主はどのような時でも、また困難な時にも必ず祈りに最善をもって応えてくださるからです。

主の導きを祈り求めつつ、教会員の皆さまと共に、深谷教会に与えられている課題を一つずつ乗り越えていく所存しております。関東教区の皆さま、ご支援の程よろしくお願いいたします。

保護司の活動と黒羽刑務所教誨師活動を通して



西那須野教会信徒、認定こども園西那須野幼稚園園長

福本 光夫

保護司の活動について、また今年3月に閉庁した黒羽刑務所での教誨師のエピソードを報告します。

1. 「対象者を信頼する保護司としての活動 — 自身が試されるとき —」

保護司が対象者の結婚式に招待される話を耳にします。ただ、私のこれまでの活動は、その人を信頼することに終始し、少しのことに喜びを感じ、約束を破られるとくじけ、立ち直ることの繰り返しです。これは私の力不足に起因することですが、生育歴からは乳幼児期の愛着形成に課題があったと推測できる人もあります。それでも何人かの人たちが、ご自身の努力によって就労を継続されていることをうれしく思います。さて、「更生保護」は、犯罪や非行をした人たちも、地域社会の一員として生きていくことを支える活動です。保護司はボランティアで、保護観察所の指導のもと、必要に応じて地域の更生保護女性会、民生委員・児童委員、協力雇用事業者と連携を図りながら、対象者の心身だけでなく社会的健康を支援し、法務省でいう以下の3項目を重点に活動しています。

- ① 保護観察 更生保護の中心となる活動で、犯罪や非行をした人に対して、更生を図るための約束ごとを守るよう指導するとともに、生活上の助言や就労の援助などを行い、その立ち直りを助けるものです。
- ② 生活環境調整 少年院や刑務所に収容されている人が、釈放後にスムーズに社会復帰を果たせるよう、釈放後の帰住先の調査、引受人との話し合い、就職の確保などを行い必要な受け入れ態勢を整えるものです。
- ③ 犯罪予防活動 犯罪や非行をした人の改善更生について地域社会の理解を求めるとともに、犯罪や非行を未然に防ぐために、“社会を明るくする運動”などの機会を通じて、「講演会」、「学校との連携事業」などの犯罪予防活動を促進しています。

保護司の活動において私は対象者を信頼しながら、時には主を見上げ26年間続けてこられたことを感謝します。

2. 「子どもたちの未来に、受刑者は2年分の年収を捧げた」

皆様からの祈りと教区からの宗派分担金補助を感謝します。近年、高齢者で初めて刑務所に入る方の増加があり、刑務所が最後のセーフティーネットになっている現実を実感します。さて、2010年のキリスト教教誨で、「幼稚園の理事会は、祈りをもって5億円の借金をして、園舎を建築することを決断しました。国、県、市からは1円の補助もありません。全額の借り入れで、私は不安もあります。20年間かけて返すのですから生きていないかもしれません。返せなかったら連帯保証人の私も皆さんと一緒に座ることになります」という話をしました。園舎完成後、3.11の大震災がありましたが、誰ひとりけがもなく、屋根の放射能も浸透楯に流れ、園庭の汚染も最小限で済みました。そんな時、一通の現金封書が送られてきました。ある外国人受刑者の方からでした。手紙の追伸には「心ばかりを少し同封させていただきました」と書かれていました。そして、「若者を歩むべき道の初めに教育せよ。年老いてもそこからそれることがないであろう（箴言22-6）」、「子供たちをわたしのところに來させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである（マルコによる福音書10-14）」という二編の聖書のことばが添えられていました。

中には1万円札が2枚ありました。この2万円は、私たち以上に受刑者にとってとても大きな金額です。当時、刑務所での作業の時間給は5円から始まりました。この2万円という金額は、実に彼の2年間分の賃金に相当します。出所後の自立には、絶対必要な虎の子であるお金を日本の子ども達の今と未来の幸せに捧げてくれました。

私は、彼のこの行為に感謝し、今でもとても勇気づけられています。

コロナ禍にあり2年にわたって延期されてきた教団総会であるが、ようやく第42総会期教団総会が9月27日～29日に対面で開催されることになった。その教団総会を控え、9月13日午後3～5時まで、関東教区『教団問題協議会』が大宮教会にて開催された。講師は、第41総会期日本基督教団総会議長の石橋秀雄牧師、講演内容は「第42総会期教団総会について—主な議案—」。参加者は35教会・伝道所、45(内リモート参加は18)名。常任常置委員・嶋田恵悟牧師による開会礼拝の後、講演と全体協議がなされた。全体協議の司会は教区総会議長・熊江秀一牧師、全体の進行は教区総会副議長・田中かおる牧師が担った。

石橋議長は、「第42回日本基督教団総会議長報告」に沿って、5期12年の教団議長としての取り組みを振り返り、次期総会期への期待を述べられた。要旨は以下の通り。

第41総会期では、「教団の財政の危機と教会消滅の危機」を重く受け止め、そのための対策を練り、実施した総会期であった。

1 教団伝道対策委員会

—「教団伝道推進基本方針」を策定—

第40総会期常議員会で「伝道対策検討委員会」が設置され、8教区議長(第40総会期：北海・東北・関東・東京・中部・大阪・四国・九州。第41総会期：奥羽・東京・神奈川・大阪・兵庫・東中国・西中国・四国)と教団3役と常議員8名がその構成員であった。この委員会で「教団伝道推進基本方針」が作成され、全委員の賛成をもって常議員会に提案することができたのは画期的なことであった。教団の危機に対する共通の認識をもつことができたからである。「基本方針」は①祈祷運動(共に祈ろう)、②信徒運動(共に伝えよう)、③献金運動(共に献げよう)である。更に、この委員会のもとに、(A)伝道推進基本方針展開検討小委員会と(B)教団機構改定検討小委員会が設置され、伝道推進と機構改定への取り組みがなされた。

2 小規模教会を拠点教会として日本伝道の推進

教団において礼拝出席礼拝出席5名以下の教会・伝道所は120(2022教団年鑑)。この小規模教会・伝道所がその地域における伝道の拠点になるように支えていきたい。小規模教会であってもその地域で生き生きと伝道できることが、日本全体の伝道推進と

なることを願ってきた。今後も尚一層、伝道基本方針が活かされることを願う。

3 日本伝道の推進を祈る日

—『信徒の友』を掲げての日本伝道の推進を!—

毎月第3日曜日を祈りの日と定め、『信徒の友』によって各教区を覚えての祈りと献金運動を呼び掛けてきた。3巡目に入ったが、各教区や教会の祈りの課題が教団の伝道文書である『信徒の友』を介して、その輪が広がっていることに希望をもっている。

4 教団機構改正に関して

第40総会期に作成・配布された「教団機構改定案骨子」に基づき、教団の機構改定について検討が進められ、2020年4月には機構改定に関わる規則変更案(素案)等を含む「教団機構改定に関する検討資料」を配布し、教区や各方面での検討をお願いしてきた。しかし、コロナ禍により議論や検討する機会が十分に持てなかったことを鑑みて、2022年7月第19回常議員会で「第42回教団総会にはこの件は上程せず、経過を報告した上で次期に申し送る」ことが決定された。コロナ禍の活動停止によって教団の財政危機が先送りされたかにみえるが、根本的な財政危機は回避されていない。機構改定により財政負担を少しでも軽減し、小規模教会・伝道所の活動が守られるよう、早急な取り組みを願っている。本総会では、教団機構改定に関する報告会を開催し、「教団機構改定に関する議案」を審議する予定である。6年かけているのだから、ぜひ、議案化して欲しいとの声が強いの。ただ、3分の2の賛成を得るのは、なかなか難しいのも事実である。

5 小規模教会・伝道所に『信徒の友』と信仰書の配布

第41総会期第20回(臨時)常議員会において、「教団出版局刊行物配布による教会および教師検定試験受験者支援に関する件」が可決された。その内容は、小規模教会・伝道所に『信徒の友』2冊配布、出版局の書籍を1万円程度配布する、教師検定試験受験者に1人1万円程度の神学書を配布する、というものである。この取り組みによって教団出版局を支えることも願っている。

6 教区総会問安は教団議長の責務

教憲第6条「本教団はその教会的機能および教務を遂行するために教区を置く」と規定されている。この教憲第6条に基づいて教区を問安することは教

団議長の責務と受け止めている。教団議長及び執行部の問安を拒否する教区もあるのだが、拒否されても議長の責務として問安をし続けてきた。一方、教憲第1条には「本教団はイエス・キリストを首と仰ぐ公同教会であって、本教団の定める信仰告白を奉じ、教憲及び教規の定めるところにしたがって、主の体たる公同教会の権能を行使し、その存立の使命を達成することをもって本旨とする。」とある。教団には「権能」が与えられており、その「権能」をもって、教区に「教会的機能」を委ねている。全体教会の「権能」のもとに教区は「教会的機能」を遂行することができるのである。従って、教区総会では准允・按手を行うことができる。また、それ故に、教団は各教区に問安使を派遣するのである。今後、この筋道を違えてはならない。

7 沖縄教区について



沖縄教区が教団と距離を置くということ、対話の道も閉ざされていることは教団の痛みである。教団議長に選任された2011年度から沖縄教区総会に傍

聴者として出席し続けてきた。問安使としていくことは適わなかったが、沖縄の痛み、沖縄の教会の痛みを知り、受け止めたいとの強い思いであった。第41総会期沖縄教区議長の平良修牧師は「非公式の訪問」を受け入れてくださり、うぶさと伝道所の礼拝に出席することが適い、平良議長の信仰者としての沖縄の痛みをお聞きすることができた。平良議長には「『沖縄の神学』をもって教団を支えるお働きをしていただけないか。沖縄の痛み、沖縄の教会の痛みを聞き続けることが重要と考えています」とお伝えした。2022年度には、教団三役と総幹事の4名で沖縄総会にかけた。沖縄教区との関係回復の道が開かれることへの切なる願いをもっての訪問であった。できる限り、精いっぱい努力をしてきたつもりだが、総会議長の任期中に沖縄教区との関係回復をなし得なかったことをお詫びする。

8 教団出版局に関して

教団出版局は2014年度から連続赤字となり、経営が危機的状況にあった。その大きな要因として「経営責任を負う者がいない」との指摘がなされ、ステアリングコミッティ(運営委員会：出版局理事長、教団三役、総幹事)を組織し、最終責任を教団議長が負うことを確認した。更に加藤真澄プロジェクトマネージャーによってデューデリジェンス(適正詳細調

査)がなされ、業務改善作業がなされているが、今後も尚一層の努力が必要である。特に出版局の定期刊行物(『信徒の友』『教師の友』『礼拝と音楽』等)の売り上げは伸びておらず、これらの伝道文書が活用され、伝道推進の一助になることを切望する。

9 教団としての祈り、声明

(詳細省略)

10 教団議長としての罪責の表明

教団の歴史は負の歴史を負っている。この負の歴史を教団の罪責として明確に罪責告白をすることが求められている。「関東教区『日本基督教団罪責告白』作成検討委員会」が設置され(当時委員長：石橋秀雄教区議長)、教団の歴史検証作業を行い、五つの罪を告白した。①教団の成立において、天皇を神とする「国体」に組み込まれ、イエス・キリストのみ唯一の主と告白する信仰を貫けなかった罪。②アジアの諸教会に対しても「宮城遥拝」や神社参拝を強要した罪。③教団の組織を守るためにキリストの体の一部である沖縄の教会を見放した罪。④旧六部、九部の教会の受難に際して、主にある支持をしなかった罪。⑤戦後の教団の新しい出発に際して、主の前に信仰的な悔い改めを十分にしなかった罪。この教団の歴史における罪責を、神と隣人との前に、日本基督教団総会議長として表明する。

・—・—・—・—・—・—・—・—・—・—・—・—・—・—・—・—

以上の講演の後、全体協議で質疑応答がなされた。「5期12年の教団議長としての総括として、今総会で一番、力点をおかれていることは何でしょうか?」という質問に対して、石橋教団議長の答えは「それは伝道推進」。「伝道推進のためにいろいろ尽力してきたつもりだ。その取り組みの中でも、伝道推進基本方針展開と教団機構改定の2つが大きな柱であった。小規模教会が、その地域の拠点教会となって生き生きと伝道できるよう、教団全体で支え合っていきたいし、そのためには伝道推進となるような機構改定が必要だと思う。この2つのことが今後も継続して推進されていくよう、強く願う。伝道、という言葉が死語になっているかに思えた時期があったが、今や、16教区・教区議長会議を経ての伝道対策検討委員会が設置されたこと、『教団伝道推進基本方針』が上程されたことは感動であった。祈りをもって更なる展開へと進んでいって欲しい。沖縄教区のことはいつも祈っている。対話の道が開かれることを願っている」。

この後、常任常置委員・栗原清牧師による閉会祈祷をもって、閉会した。

地区だより

新潟地区



地区長 長倉 望

昨年度、オンラインで2週間の信徒大会を行いました。今年度は対面とオンラインを併用する形でさまざまなプログラムを再開でき、感謝でした。

9月25日には地区祈祷会を開催。冬の豪雪で倒壊してしまった妙高高原教会のこれまでの歩みとこれからの歩みについて、信徒の高橋雅子さんより伺い、神さまの導きを覚え、祈りました。10月27日には地区教会婦人会連合修養会が行われ、「わたしたちが住まう世界～聖書とSDGs～」と題された講演を東中通教会片岡宝子牧師より伺いました。丁寧に準備された講演で、聖書のみ言葉やキリスト教の歴史、他教派の取り組みなど、幅広い見地から信仰と環境のあり方を学びました。また、10月23～24日に壮年部の1泊懇親会が3年ぶりに行われ、新しく着任された先生方との楽しい交わりの時を持ってました。10月30日には小規模教会懇談会を開き、今回は新潟教会出身教職で、米国ウェスレー合同メソジスト教会で9年間の宣教・牧会のお働きを担った山本一牧師のアメリカでの実践の経験から、それぞれの教会活動へのヒントと励ましを得たいとの思いから、オンラインでご講演いただきました。教会が地域の課題を共に担い地域に仕える「アウトリーチ」の働き、という新しい視点を与えられ感謝でした。11月3日は教会音楽部主催の奏楽講演・研修会が、教団賛美歌委員会から飯靖子先生を講師に新潟教会で開催、奏楽者が実際に直面する困り事を分かち合い、飯先生のアドバイスをいただく実践的な講習会となり、奏楽者同士の励ましの時ともなりました。

群馬地区



地区長 藤田 基道

【人事】 本年3月末を以て野村誠教師が共愛学園前

橋国際大学教務教師を、吉居美緒教師が新島学園中学校・高等学校教務教師を辞任。

本年4月より朝日研一朗教師が安中教会主任担任教師に就任し、9月25日に熊江秀一教師（教区総会議長）司式により就任式が行われました。また、鶴崎寿教師が群馬町担任教師に就任。5月の教区総会で准允を受け、7月24日、田中かおる教師（教区総会副議長）司式で就任式が行われました。

【活動】 教師部は4月24日と9月26日に教師会を、6月20日に洪川教会にて3年ぶりの研修「説教について」を開催。婦人部は6月8日、桐生教会を訪問。壮年部は6月19日に太田八幡教会、10月16日は群馬町教会において交流の集いを開催しました。壮年部ではパソコンの使用について学びを進めています。7月18日、桐生教会において教区新任教師オリエンテーション、ナルド懇談会が開催されました。

教育部は11月3日に共愛学園前橋国際大学で、3年ぶりの教会こどもの集いを対面開催します。

教会記録審査は組を設けて交換方式で実施。

地区講壇交換礼拝を再開し、組み合わせられた教会同士で協議の上、本年度内に実施することになっています。これも2019年以来となります。

10月23日に地区大会実行委員会を組織し、来年度の実施に向けて準備を進めます。

各教会の活動についてアンケートを実施。活動や課題などを地区で共有したいと考えています。

栃木地区



地区委員長 高崎 正芳

コロナ禍で動きの乏しかった栃木地区も、ウィズコロナを見据え、各部が動き始めました。まず、10月10日(月)には婦人部修養会が対面で行われました。講師の望月麻生牧師（足利教会）は、牧師、附属幼稚園の園長として歩んだ2年の経験を踏まえ、「このような器をも」と題して講演をしてくださいました。未知のウイルスに翻弄され、時には途方に暮れながら、しかし守られて今日に至ると

いう望月牧師の思いは、地区内の10教会から益子教会に集った44名の心の声でもあったと思います。集えた喜びが、礼拝堂に溢れていました。

同じ週の土曜日には青年部も2年ぶりの例会を持ちました。メンバーとなる青年層が各教会に少ない、いないという、婦人部とは別の課題が青年部にはあります。この難題に新任の担当教師と古参の青年部委員長が協力して取り組んでいます。

婦人部、青年部に続き、地区の全教会が集まるオータムフェスタ（11月23日（水）、宇都宮上町教会）も計画が進行中です。「祈りあわせよう！栃木地区内のなかまたちと」を今回の主題に選びました。各教会の祈りの課題を代表者2名に託し、会場教会に送り届けてもらい、祈りの会を持ちます。[第1部] 祈りの課題の発表はZoomでの視聴を可能にするハイブリット開催という、栃木地区には先進的なプログラムに今年はチャレンジします。

最後に「益子伝道を推進する会」は会報の発行が遅れていることをお詫びします。益子教会と大下牧師のためにお祈りください。



茨城地区

地区長 たちばな 橋 ひでとし 秀紀

依然コロナ禍にあってさまざまな規制を受ける中、工夫をしながら茨城地区としての繋がりや新たな出会い・出会い直しを模索しています。地区大会は午後の講演のみでしたが、筑波学園教会を会場にオンラインも繋ぎながら、平良愛香牧師を講師に「LGBTとキリスト教～僕がゲイで良かったこと」と題し実施できました。教育部では各教会・伝道所での子どもたちのプログラムそのものが困難になっているケースが増えている中、少しでも繋がりを感じてもらいたいと願いつつ茨城地区内の教会・伝道所の子どもたちを繋ぐことができるようなプログラムをとムービー制作を準備しています。女性部もやはり苦慮しながらコロナ禍の合間を縫って委員会活動や教会訪問など地道な、そして大切な働きをしてくださっています。感謝です。社会部は2.11集会を開催すべく準備中です。

地区内の諸教会・伝道所動向としては今年度より牛久教会には池田季美枝牧師が、筑波学園教会

には上原秀樹牧師が就任されました。また守谷伝道所の若月健悟牧師が7月1日、帰天されました。いずれも駆けつけて共に祈りたい方々が大勢いたと思いますが、コロナ禍ゆえにかなわなかったのは本当に残念なことです。そしてだからこそこれからも、一つひとつのつながりや出来事を大切に、出会いに誠実に向き合っていくことがますます求められていると感じています。茨城地区としての活動も、ささやかであれそのような働きとなればと願っています。



埼玉地区

地区委員長 小林 眞

◎最近の教会動向紹介

戦後、親子二代で、伝道・牧会・幼稚園（幼児教育）に励んでこられた中村眞先生が隠退され、埼玉新生教会に平澤昇先生が着任された。1年の代務期間を終えて、七里教会には、以前にも同教会で伝道・牧会されていた佐々木佐余子牧師が着任され、両教会で就任式が行われた。

- ・残念なことに、館林教会で隠退され、幾つかの無牧の教会の説教応援をしておられた内田武士先生が9月27日に召天された。
- ・越生教会が、7月15日の豪雨による地崩れで、地区からお見舞金を差上げた。

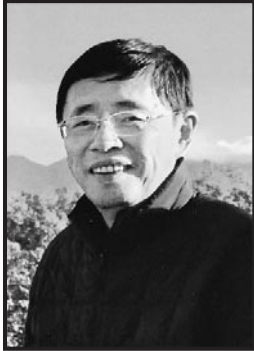
◎埼玉地区内規の見直しを行っており、もうすぐ改正がなされる予定。

◎コロナ禍もかなり沈静化し、各委員会も其々に活動が始められており嬉しいことです。

- ・アーモンドの会（9月23日）「高次脳機能障害を負う絵本作家ソラさんの出版に携わって」（参加53名）
- ・教師研修会（9月26日）「日韓の教会…主が備えられた共生の道」講師：崔長壽牧師（参加17名）
- ・教会音楽講習会（10月1日）講演「讃美歌21・再発見③」講師：飯靖子（参加33名）
- ・CS生徒大会（10月10日）武蔵丘陵森林公園（参加73名 [大人含む]）
- ・伝道協力協議会「教会の現状報告と今後の伝道委員会」（参加18名）

追悼 久保島泰教師、福島英子教師、若月健悟教師

久保島泰教師



東海教区浜松教会牧師

西堀 俊和

8月25日、久保島泰牧師の「お別れの会」。東大宮教会の礼拝堂には、久保島理恵さんとご長女結希さん、そして隣には棺に横たわる彼がいた。彼の死は本当だったのだと実感した。

理恵さんは素晴らしい伝道者だ。彼女の言葉は悲しみを笑いに変える。棺を横に思い出話に花が咲いて、楽しい時になった。そんな中で結希さんが不意に「セオロギアライト」と言い出した。ほろ苦い記憶、恥ずかしさが込み上げた。

久保島泰先生。当時は旧姓で米窪泰さん。彼は東京神学大学では私の1学年上だった。彼は学究肌で、私は学問には無縁だったから、彼の言うことはしばしば分からなかったけれども、妙に気が合うところがあって、私は彼の部屋を頻繁に訪ねた。存分に語り、嘆き、笑い、教えられたりしながら、私は神学的な感覚に目覚めさせられていった。だから今日の私があるのは彼のおかげだ、と言って間違いはない。

彼とは、学生会のセオロギア委員会を通して知り合った。セオロギア委員会は学問的な雑誌「セオロギア」と共に、神学生の生活に根ざした「セオロギアライト」を刊行していた。ある年の「…ライト」は、私たちとしては真面目に、神学の別の表現を模索したつもりだったが、「ふざけすぎだ」との一部の非難に晒された。「…ライト」は私にとっては苦い思い出となった。それが結希さんに伝わっていたなんて。

ただ卒業後の彼はどこか変わってしまった。私は昔ほど気安く声をかけられなくなっていた。彼の教職者の歩みに何があったのか私は知らない。

「また会おう」。棺の彼にやっと呼びかけることができた。

関東教区埼玉地区委員長 岩槻教会牧師

小林 眞

久保島泰牧師は、長野県でも有名な教育者であり、後に牧師に専念された小原福治牧師を祖父に持った影響で、信州大学を卒業後、自らも長野県北部で中学校の国語教師として社会人の出発をされた。

その後31歳の時、祖父の牧会された長野教会で洗礼を受け、献身の志が与えられ、東京神学大学に編入。1996年に修士課程を修了された。

翌年には、同修士課程を修了され教職となられた理恵牧師と結婚され、三つの教会、一つのキリスト教主義学校に仕えた後、東大宮教会に赴任。

1年後に岩槻教会に赴任した私に「小林先生、地区講壇交換をお願いできませんか？知った方と決めないと、教会観の違う方が来られると不安になりますので」という意味のことをおっしゃった。これを聞いて、「この方は、み言葉による教会形成を弁えておられる方だ」と思われ、「喜んで」と返事をし、実際にそうさせていただいた。

今から3年半前、久保島牧師は、体調不良を訴え、診察の結果、思いもよらぬ「多発性骨髄腫」と診断された。その後の治療により、一時は講壇に復帰できたが、昨年1月に再発。8月21日に64歳で主のみ元に召された。

久保島牧師は、生前に教会報「おとずれ（427号）」に、次のように書いておられる。

「主が共におられるということは、私たちに何も悪いことが起こらないということではないようです。主が共におられるということは、私たちがいかなる苦難にあっても、主が共に居て下さるが故に、決して希望を失うことがないということです。」

ご遺族に、主の慰めが豊かにありますように！

福島英子教師



七里教会牧師

佐々木 佐余子

先生は、キリスト教の幼児教育を志ざしておられ、全くの純農村地帯にキリスト教の幼稚園を立てようと御夫君であられる故福島聖二先生と協力し奔走されました。その頃はキリスト教の幼稚園はどこ

にもない時代でしたので、先生方は一軒一軒訪問し説得して歩いたと伺っております。やがて、菁莪幼稚園が開園し、その後姉妹園である白岡天使幼稚園が創設されました。私は2013年5月から2022年3月まで9年間白岡伝道所の担任教師として仕えました。その間思うことは、先生は大変物静かなお人ではありますが、内に秘めた強い信念、信仰、気丈さは1928年から2022年まで生き通した94歳の人生を貫いておりました。白岡伝道所の役員会では先生ご自身の戦争体験や地区婦人部のこと、教会学校や伝道の仕方を長時間お話しくださり、今となっては宝の時間でした。2012年3月、福島聖二先生は瑞宝双光章を県から受賞されています。それは英子先生の支えがあったからこそであります。菁莪幼稚園と白岡天使幼稚園は、礼拝時、子供説教を通して福音を園児たちに伝えています。その子どもたちが家庭でイエスさまのお話をすることによって、家族に伝播できればと考えられたのだと思います。そのような長年の幼児教育を地域の方々は評価しています。今白岡伝道所の会員の多くはかつての園の関係者であり、園児たちは高校生、中学生、小学生となって礼拝を守っています。先生の愛唱聖句は「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい」(テサロニケー5:16~18)でした。

「追悼」欄は、現任のまま召天された教師の追悼文を掲載しています。

隠退・無任所で関東教区とゆかりのある教師で、2月下旬から9月までに召天された教師は

- ・小倉奎信教師(最終任所・諸川伝道所)2月26日召天
 - ・小海寅之助教師(最終任所・西上尾教会)8月12日召天
 - ・内田武士教師(最終任所・館林教会)9月27日召天
- ご遺族の上に天来の慰めがありますようお祈りいたします。

若月健悟教師



水戸教会牧師

橘 秀紀

若月健悟牧師、天に帰るとの知らせに何とも言えない寂しさを感じたのは、久しく顔を合わせる事がなかったのをコロナ禍のせいだけにして

いる自分を責める気持ちがあったからかも知れません。あるいは、ますます日々の忙しさに埋没していくような私に比べ、最後の最後まで福音宣教の使命に立ち続けたその姿への後ろめたさでもあるかも知れないと思っています。

エネルギーにあふれた人でした。個人的には私が高校生の頃に参加したキャンプで、はじめて若月牧師と出会いました。夏の日差しに汗だくな高校生を満面の笑顔とたった一言のダジャレで涼しくしてくれるほど、既にその道を極めておられたことを懐かしく思い出します。その後10年ほど経ってから再会を果たしたのは関東教区事務所でした。若月牧師が教区書記を任じられていた時、私が教区主事をさせていただいたのです。職務中にも繰り出されるダジャレを私がスルーしてなお、一切動じないばかりか笑顔で連発されるそのメンタリティーには学ぶところ大でした。…いえ本当は主事など必要のないくらいほとんどの仕事をご自分でこなすその陰で、私は随分と楽をさせていただきながら学ばせていただいただけのことなのです。

茨城地区では地区委員会でもご一緒させていただきました。そして笑顔で接する姿とお働きぶりの変わりなさに驚嘆していた中で聞いたのが病氣のこと、そしてこのたびの帰天の知らせでした。まさに「走り通された」の一言だと感じています。その労を神が労い、悲しむ者の涙を神が拭ってくださるようにと祈っています。感謝と共に。

第72総会期第2回、第3回常置委員会報告

教区書記 小池 正造

第2回常置委員会を9月13日に、第3回常置委員会を11月8日に、第2回常任常置委員会を7月12日に、第3回常任常置委員会を9月6日に、第4回常任常置委員会を11月1日に大宮教会で行いました。

- ・宣教部報告 対面にて新任教師オリエンテーション、ナルド受給教会との懇談会が行われ、ハイブリット方式で教区宣教を考える集い、社会活動協議会が行われました。
- ・教区教師部研修会が、「コロナ社会と人間の心理」と題し、碓井真史氏（新潟青陵大学大学院教授）を講師に招き、大宮教会にてハイブリット方式で行われました。
- ・常議員報告 教団総会の様子と常議員選挙において関東教区より武田真治師（上尾合同教会）、田中かおる師（安行教会）、佐久間文雄氏（志木教会）、豊川昭夫氏（越谷教会）の4名が選出され旨、報告されました。
- ・秋季教師検定試験受験志願者の推薦について、第2回常任常置委員会において「正教師試験受験志願者」大島庄吾師（新潟愛泉伝道所主任）、佐藤彰子師（越生教会主任）の推薦を承認しました。
- ・教区総会の振り返りを行い、埼玉地区より、他地区が運営担当になった時、車両などの提供に協力できると報告されました。また、総会時に聖餐式を行う場合、レイボックホール会場内が飲食禁止となっているため、対処が必要となることが報告されました。
- ・教区推薦の確認事項一部修正に関して、文言の一部を次のように変更。前：あなたは、合同教会である日本基督教団の基盤としての日本基督教団信仰告白を告白し、「教憲・教規」を守ることを約束しますか。後：あなたは、合同教会として合同された日本基督教団（以下同文）。
- ・教区主事事務人件費に関する件 検討委員会の提案を受けて、事務職員の時給を1,200円に変更し、起算日を4月1日にすることを決めました。
- ・秋季按手礼 志願者の大島庄吾師（新潟愛泉伝道所主任）、野澤幸宏師（栃尾教会・巻祝福教会主任）、稲益久仁子師（埼玉大通り教会主任）、佐藤彰子師（越生教会主任）の面接を行い、執行を可決しました。按手礼を11月26日（土）午前10時30分より大宮教会にて行います。なお、式の内容を録画しホームページ上で配信をします。

- ・春季教師検定試験受験志願者の推薦について、「補教師試験受験志願者」平澤巴恵氏（春日部教会信徒）、小田哲郎氏（浦和東教会信徒）、大下陽子氏（益子教会信徒）の推薦を承認しました。
- ・2023年度教区予算・教区負担金に関して、各部委員会の活動の再開を見込んで、今年度と同等の額で、教区負担金を計算することにしました。現段階での見積もりは、40,634,000円（△392,000円）となります。この額で、財務部に予算作成を指示しました。
- ・教団常設委員候補者の推薦を確定しました。
- ・新潟・村上水害での被害者宅（関係施設）へのお見舞いを行うことを確認しました。
- ・各種申請に関する件（敬称略）

(1) 教会担任教師異動

前渡伝道所	辞	鈴木 光（代・正）
石岡教会	辞	福島純雄（代・正）
	就	大塚 慎（代・正）
埼玉中国語伝道所	辞	森永憲治（主・正）
	就	小林 眞（代・正）
深谷教会	辞	保母光彦（主・正）
	辞	法亢聖親（担・正）
	就	法亢聖親（主・正）
	辞	法亢聖親（担・正）
守谷伝道所	就	飯塚拓也（代・正）
竜ヶ崎教会	辞	清野 量（担・補）

(2) 巡回教師・神学教師・教務教師異動

聖学院大学	就	木村太郎（兼教・正）
	辞	五十嵐成美（教・正）

各種申請・届

(1) 宗教法人法 第23条申請

深谷教会（土地取得）
那須塩原伝道所（教団特別財産登記）

(2) 宗教法人規則

前橋中部教会（責任役員数変更ほか）

(3) 教会規則

久美愛教会（制定）

教区謝儀互助申請について

2023年度の教区謝儀互助の申請を検討されている教会・伝道所は、必要書類を整えて、地区長の印を受けた上で、教区事務所に1月31日必着でお送りください。日時厳守となります。

「隠退教師を支える運動」

教区推進委員、七里教会信徒 滝川 英子

「わたしに聞け、ヤコブの家よ イスラエルの家の残りの者よ、共に。あなたたちは生まれた時から負われ胎を出た時から担われてきた。同じように、わたしはあなたたちの老いる日まで 白髪になるまで背負って行こう。わたしはあなたたちを造った。わたしが担い、背負い、救い出す。」 イザヤ書46章3～4節

このみ言葉をこの運動のビジョンの冒頭に置き、推進委員は会毎に唱えて奉仕の原点確認をします。私たち信徒が、み言葉の役者として福音伝道に生涯を捧げ尽くされ、隠退された牧師先生とご家族の生活をお支えする運動を紹介させていただきます。

1973年、旭川豊岡教会の壮年会で財政的困窮の為、苦境におられる隠退教師の実情を知って語り合い、この状況になんとか対処したいと願って祈りあい立ち上がったのが、この運動の原点です。5年後、北海教区が教団総会に議案提出して、満場一致で決議された教団唯一の信徒運動です。隠退教師は教団の教師委員会に属することなく隠退後、寂しい環境を余儀なくされておられる先生方の状況を伺い、信徒運動としてお役に立つべく話し合いを重ねて参りました。多くの先生方の終の住処の環境の希望は、静かな？その理由をお尋ねした所、自由な時間が与えられましたら映画、コンサート、美術館、博物館等、今まで我慢して来た趣味を楽しみたいと、語られた先生方の笑顔を思い出します。

関東教区では、11月の常置委員会で、隠退教師にクリスマスカードに一言メッセージとサインを書く良き慣わしがありますし、教区総会のご案内と陪席希望も許可されていることに、他教区の多くの先生方が羨望されておられました。

10月7日、久しぶりに対面で全教区推進委員会が教団において開催され、最後の謝恩金受給者の先生がご逝去されて対象者が無くなったとの報告がありました。支給科目が無くなりましたので、支給目的の変更を審議しました。教団の教師でありながら、小規模教会伝道所には牧師の年金掛金の支出が困難な為、年金を受給されておられない先生やご遺族に、ささやかながらクリスマス祝い金2万円を贈り続けて参りましたが、その増額を長い間願いながら実現に至りませんでした。今回やっとクリスマス祝い金を3万円に増額することが決議されました。クリスマスカードに「祝い金のおかげで、灯油を購入出来、この冬も暖かく過ごせますこと、感謝です」と返書下さる牧師夫人の顔が浮かびました。

1カ月100円。信仰さえあれば誰でも出来る100円献金が、この様な喜びを生み出し続けて下さる。神様が、どんなにこの運動を愛し続けておられるかを実感させていただく為に、どうぞ、まだこの献金運動に加わっておられない教会は、各地区の推進員にお声をかけてください。私共々ご希望の日に教会に出向いて、この運動を紹介させていただきます。この掛け替えのない喜びと感謝を、主にあって体験し分かち合いたく願います。

40代でこの運動に関わらせていただきました者も80歳を迎えました。今期を最後に、教区推進委員を隠退させていただきたく、願い祈っています。主の御用は沢山ありますが、この役は掛け替えなく、有り難いものです。けれどもどの教区でも後任が決まらず難航しています。「私をお使いください」と願い出られる方を、主が待ち望んでおられます。お招きに応えたいと思われる方、教区に申しでてくださいませ。難しいことはありません。隠退された先生やご遺族に対して感謝の心さえあれば、主がお導き下さいます。「私たちをお造り下さった主が、私を担い、背負い助け出す」とお約束下さる主の恵みの実現に、参与される「あなた」をお待ちしております。

新型コロナウイルス感染拡大の第8波と言われる中で、各教会でも様々な配慮をもってクリスマスの諸準備を進めておられることと思います。この時、特に、戦火の中で命の危機に怯えて過ごさざるを得ないウクライナの人々の上に主の特別な御守りがありますように祈ります。

◎教区一覧の追加・訂正をご覧ください。

5頁 教区通信委員(長)西谷祐司(書)坂口慶行
(会)成田顕靖

8頁 教団総会議員(片岡宝子)住所 〒951-8122
新潟市中央区旭町通1番町754-21

13頁 茨城地区20 守谷(代)飯塚拓也

14頁 埼玉地区5 東大宮 久保島泰 削除

18頁 教務教師1 敬和学園高校 中塚詠子 削除

20頁 隠退教師6 小海寅之助、11内田武士 削除

裏表紙 他教区議長 5西東京 岩田昌路(狛江)

10大阪 尾島 信之(南大阪)

◎各種献金へのご協力をお願いいたします。

今年度は対面での教区総会を行うことができ、多くの教会から特別献金を始め各種献金のお捧げをいただき感謝致します。しかし、必要が充分充たされるまでには至っておりません。各個教会の財政も厳しい状況と思いますが、各々の献金目的をご理解いただき、教区の共同の業として、教区内全教会が1歩を踏み出してくださる様に願っています。

◎新型コロナウイルス対策支援金について

長く続く新型コロナウイルス感染拡大により、經常収入が低下した教会への支援策として①教師謝儀支援、②教会活動支援があります。詳細は、6月中にお知らせをしています。申請により支援を行っています。希望される教会・伝道所は、今年度最後の常置委員会2月14日(火)が締め切りとなりますので、期日厳守で教区事務所へ申請書をお送りください。詳細は教区のHPで確認するか、教区事務所へお問い合わせください。

◎教区事務所 冬期休業日のお知らせ

期間 12月28日(水)~1月6日(金)

※土・日・月は通常の休業日となります。

※緊急時の連絡は、小池正造書記まで
東新潟教会 025-247-0058 F

今冬は、新型コロナウイルス感染拡大とインフルエンザが同時に流行するのではないかと報道されており、特に既往症のある方は心配も大きいのではないかと思います。近頃は、ワクチン接種も済み、いろいろと気を付けていたのに、コロナに罹患してしまったという方もおられます。どう日々の生活をしていたら良いかわかりません。

でも個人が、手洗い、うがいなどの基本的な予防を励行し、三密を避け、部屋の換気を十分にし、自己免疫力を高める食事・睡眠・運動などに気を付ける以外ないのではと思われています。皆様方が元気で過ごせますようお祈りいたします。

◎冬季賞与と社会保険料について

賞与保険料は、標準賞与額(支給額の千円未満を切捨てた額)に各料率を掛けて算出した額。

年齢 項目	40 未満	40 以上 65 未満	65 以上 70 未満	70 以上 75 未満
健保	9.71%	9.71%	9.71%	9.71%
介護		1.64%		
厚生	18.30%	18.30%	18.30%	
児童	0.36%	0.36%	0.36%	

※算出額の小数点以下は、4捨5入します。

賞与保険料の負担…教師と教会・伝道所で折半。
12月末までに納入してください。

※自動払込日は、12月26日(月)です。

◎自動払込日に注意!

12月は賞与保険料も加わります。また、年度末の2・3月は通常月より1日早い引落日になります。確実な入金をお願いします。また、教会負担金・ナルド献金・各種献金等の引落を希望される場合は、引落日の4日前までにご連絡ください。

◎「医療費のお知らせ」をお送りいたします。

昨年10月~今年9月までに受診した医療費の内訳です。内容をご確認ください。これは、医療費控除の申告手続きに使用することもできます。健保協会から届き次第お送り致します。

◎扶養者状況確認書の届出 完了しました。

皆様方のご協力を感謝致します。

編 / 集 / 後 / 記

春、3年ぶりに教区総会が対面で行われ、教区執行部や諸委員会のメンバーが変わりました。これに伴い、前総会期まで教区通信委員会委員長を務めていた成田顕靖が1年間限りの教師部委員長になったため、西谷祐司が新

たな教区通信委員会委員長になりました。今後の教区通信の原稿提出先、問い合わせ先、部数変更申込先は新委員長の西谷に変更となります。どうぞよろしくお祈り申し上げます。(成田顕靖)

本当に重要なことを確かめながら

宣教部委員長 飯塚 拓也（龍ヶ崎教会牧師）

11月7日（月）の夜に、日本キリスト教会柏木教会を会場に、「ミャンマーの現状を知る」とのテーマで講演会が持たれました。2022年4月に渡日し、現在、西南学院大学でキリスト教倫理を指導されているマウンマウンイン先生からミャンマーの現状をお話いただきました。2021年2月1日、国軍クーデターによって民主化への道が閉ざされ、弾圧と極度の食糧不足でミャンマー市民は命の危機にさらされています。クーデター後、難民が150万人増加し、インドやタイとの国境に近い難民キャンプで暮らしています。貧困率が増加し、インフレで価格は4倍となり、人びとはどうやって明日を生き延びるかの日々を送っています。7,000人の一般市民が亡くなり、そのうち半数は内戦に巻き込まれて死亡した人たちです。国軍の徹底した弾圧による虐殺によって、ミャンマーでの暴力と不正義をとめる動きが起きない嘆きを聞きました。「これから先、どれくらいの人が暴力を受け、どれくらいの人が死ななければならないのか」と。

講演会の最後に、閉会祈祷をさせていただきましたが、何を祈ったらいいのかと言葉につまりました。ミャンマー国軍によって、家を焼かれ住むところを奪われたこと。食べ物を奪われたこと。自由を奪われたこと。生きる権利を奪われたこと。そして、家族を奪われ、多くの命が奪われたこと。そんな現実を知らされて、その悲惨な現実に対して何を祈ることができるのだろうかと思ったのです。

そのような中での祈りは2つでした。1つは、そのような悲惨さの中でも、ミャンマーの人々は助け合い、支え合って生きようとしている、そのような命を守る人々の取り組みを主よ祝してください、でした。そしてもう1つは、暴力は暴力を生み出し、暴力で平和は生み出せない中で、国軍による暴力が止まり話し合いのテーブルを囲む日が来ますように、そのために私たちに何ができるかを教えてください、でした。

パウロが獄中からフィリピの教会の人々に宛てたフィリピの信徒への手紙の中の、「わたしは、こう祈ります。知る力と見抜く力とを身に着けて、あなたがたの愛がますます豊かになり、本当に重要なことを見分けられるように。」（1章9～10節）が響く思いです。パウロが教える、「知る力と見抜く力」、そして「愛」を、私たちは神に祈り求め、「本当に重要なことを見分けられる」ようになりたいと強く願います。

今、世界では右傾化が進んでいます。英オックス

フォード大の研究チームが運営する国際統計サイト「Our World in Data」は、データ入手の可能な199カ国・地域の政治体制を、「閉鎖型独裁」「選挙による独裁」「選挙による民主主義」「自由民主主義」の4つに分類しました。そして、2021年の時点で「自由民主主義」が34カ国・地域、「選挙による民主主義」が56カ国。つまり「意味のある」選挙を実施している国は合わせて90カ国・地域となる一方で、「選挙による独裁」は63カ国、「閉鎖型独裁」は46カ国・地域で、合わせて109カ国・地域が「権威主義的な政府」となる結果を報告しました。人口で見ても、民主主義を享受する割合は2017年の50%を頂点に下落し、2021年では世界人口（78.6億人）のうち、23億人（29%）に下がっているそうです。なんと、世界人口の71%が「独裁に分類される国に住む」という衝撃な事実です。日本に住む私たちにとっては当たり前のことが、当たり前ではないのです。

世界の7割の人々も、恐れることなく笑い、心の底から歌い、自分が信じる神に祈れる日が日常となることを願わずにはいられません。また、自由に集会を開き、自由に語り、誰かの顔色をうかがうことなく自分を表わせる日が来ることを願わずにはいられません。

ロシアによるウクライナ侵攻は未だ止まず、プーチン大統領は核兵器の使用までにおわせています。核戦争の危機がリアルさを持って私たちに迫る中で、世界は決して平和ではないことを教えられます。そして、これらの「いのちと平和の危機」の中で、キリスト教会はどのように歩むのかが問われているのだと思います。「地の塩・世の光」としての使命をもって、私たちは宣教の業に取り組みたいと心から願います。

でも、私たちにできることはほんのわずかでしょう。あまりに大きい課題を前に、私たちはただ立ち尽くすしかない小さな存在です。そんな中で、あのマザー・テレサの言葉が聞こえます。「（何十億の人々の中で、誰か一人が愛を注ぐのをやめたところで何も変わらないとも思いますが、マザーはそうは考えません。）どんなに大きな海でも、一滴が欠ければ、その一滴ぶんどけ小さくなってしまふからです。その一滴を注ぎ続けることに、大きな意味があるのです。」（片柳弘史「世界で一番大切なあなたへ マザー・テレサからの贈り物」）。

「神の栄光と誉れとをたたえることができるように。」（フィリピ1:11）とは、私たちなりの一滴を注ぎ続けることだと思います。

新任教師オリエンテーション報告

稲益久仁子（宣教部委員・埼大通り教会）

7月18日（月・海の日）関東教区新任教師オリエンテーションが開催されました。開催場所は群馬地区の桐生教会です。長谷川直紀牧師と教会の方々のご協力で、対面とZOOM配信のハイブリッド式の開催となりました。田中かおる副議長による開会祈祷と礼拝を捧げ、参加者の自己紹介になりました。関東教区5つの地区に赴任したベテランの牧師から伝道者として1年2年という新人教師が共に集い学ぶのがこのオリエンテーションです。

自己紹介後は直ぐにオリエンテーションに入りました。熊江秀一議長から教区として大切にしている連帯と宣教協力の取り組みが説明されました。ナルドの壺献金や自然災害の経験を通しての取り組み、コロナ対策支援などの話です。更に関東教区「日本基督教団罪責告白」、狭山事件などの部落差別に対する差別をなくす活動、2022年度関東教区活動方針が説明されました。続いて宣教部活動とナルドの壺献金運動について飯塚拓也宣教部委員長のお話、教師部活動については成田顕靖教師部委員長、教区の支援制度は小池正造書記が担当してくださいました。

昨年度、この新任教師オリエンテーションがありました。全員ZOOMでの参加でした。コロナ感染拡大のため対面での開催ができなかったからです。今回は対面とZOOMの両方の参加が可能となり、喜びの時となりました。共に集まり共に祈り、顔を合わせる機会が大切であり宣教の励みとなることになりました。

関東教区の宣教地域は5地区140の教会と伝道所があり、そこにたくされた1600万以上の民がいます。2020年4月からコロナ禍のため外出を控えていた時期もあり、同じ地区の教会がどこにあるのか、牧会しておられる先生達との交流も少なく寂しい限りでした。現在コロナ禍3年目に入り、宣教の厳しさは増しています。しかしその厳しい時期だからこそ、連帯というつながりが必要なのです。

私自身、今年度は1年の任期ですが宣教部委員として奉仕する機会に恵まれて感謝しています。群馬地区も初めて行くことができました。会場の桐生教会に集められた多くの先生方にも出会えました。そしてこのオリエンテーションから宣教に対する強い励ましを受けたのです。感謝します！

ナルドの壺懇談会の恵みに感謝して

長谷川 直紀（桐生教会）

ナルドの壺懇談会が、2022年7月18日（月）、午後1時30分から桐生教会を会場に行われました。なお午前中には、新任教師オリエンテーションも行われました。

まず、ナルドの壺献金によって支えられているそれぞれの教会の伝道報告や祈りの課題をお聞きすることができました。そのことを通して、それぞれの教会が小さくない課題や重荷を担いつつ、何よりも主日礼拝を大切にしながら前向きに主から託されている伝道の業に邁進している様子をうかがい知ることができ、豊かな恵みを主にあって皆で分かち合うことができました。

そして、最後に共に祈りをあわせたとき、「一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、ひとつの部分が尊ばれば、すべての部分が共に喜ぶのです。あなたがたはキリストのからだであり、また一人一人はその部分です。」（一コリント12章26～27節）の御言葉と共に、主から遣わされているところはそれぞれ違っていても、共に主に召し出され共に主と教会に仕えるものとして、主の十字架を共に仰ぎ見つつ、また、それぞれの十字架を負いつつ、共に主に献身している真実をあらためて知り、深い慰めと大きな勇気を共にいただくことができました。

コロナ禍が想像以上に長引き、ひとつのところに集って教区の集会をなかなか開くことのできない厳しい現実のなか、本当に久しぶりに教区ナルドの壺懇談会をひとつのところに集って行うことができたことは、教会の頭である主からの特別な祝福であったと思います。そして、時間が経つごとにそのことを深く思われ、その特別な恵みと祝福に感謝するばかりです。

ナルドの壺懇談会の出席者は30名ほど（ZOOMは13名）でしたが、深く豊かな霊性が会場の桐生教会を包みこんでいたことが忘れられません。そのことを通して、教会の諸教会やそこに結ばれている兄弟姉妹方の時間をかけた無数の篤い祈りに支えられてきたことをあらためて知り胸が熱くなりました。そのことを忘れることなく、日本基督教団信仰告白を共に告白する喜びを携え、主日礼拝を中心に、地道にコツコツと御言葉の種をまき続けていくことで、共に主にお応えしていきたいと祈り願っています。これからも御加禱くださいますよう、よろしくお祈りします。

沖縄の声に耳を傾けて

手束 信吾（宣教部委員・水海道教会）

8月11日（山の日）、「関東教区・宣教を考える集い」が竜ヶ崎教会で行われました。Zoomも併用しての集会で、配信用資材が限られている中で技術的にいろいろと難しい面もあり、Zoomでの参加者の方々にはご不便をおかけした面もあったかと思えます。

メインテーマは「沖縄は今」で、講師は日本基督教団佐敷教会牧師の金井創先生。講演では日本の国土の0.6%に過ぎない沖縄県に、在日米軍基地の70%が集中しているという状況の中で、沖縄の人々がどれほど負担（犠牲）を強いられているかということ伺いました。沖縄の人の言葉に、「軍は住民を守ってくれない。基地のある所に戦争が来る。」というのがあるそうです。今後、アメリカは中国に対抗する中距離ミサイルを、日本列島に配備する計画を持っているそうです。「基地のある所に戦争が来る」という言葉によるならば、沖縄の抱えている苦しみは決して他人ごとではなく、自分たちのこととして考えていく必要があることを教えられました。そして、講演の最後に言われた言葉が心に響きました。「戦争を想定して逃げることを考えるのではなく、戦争につながるものを拒否。すべての軍事基地撤去を求めて行動する。非暴力で平和を作ることがキリスト者の使命。」…キリスト者として平和を創り出していく使命が私たちに与えられていること、そして「沖縄差別」と言える現実がこの国にはあるということ、そして私たちも知らずして「沖縄差別」に加担していることがあることを覚え、沖縄のことをもっと知りたいと思われました。

午後の部は、大人の参加者は礼拝堂で、飯塚拓也宣教委員長より「ナルドは今」と題して、ナルドアンケートの分析・報告を聞きました。中高生・青年は、「金井先生と話そう」という集いを竜ヶ崎幼稚園の園舎を借りて行いました。会場に集まってくれた中高生6名とZoomで参加してくれた4名で、金井先生に質問を投げかけ、それに対して答えていただくという形で会を進めました。Zoom参加者からの音声が生かされず、届かないと言うアクシデントがありましたが、チャット機能を用いて質問をしてもらい、司会者がそれを代読するという形で乗り越えました。

最初は緊張気味だった参加者も、次第に打ち解け、気づけばあっという間に終わりの時間となりました。若い人たちが真剣に沖縄のことを知ろうとしている姿はとても頼もしく思えました。沖縄でのKKSキャンプが実現できればと切に思いました。

関東教区宣教を考える集いに参加して

小林路津子（高取手伝道所）

沖縄のこと（米軍基地建設反対運動）に関心を寄せ連帯の思いで祈ってきた、と自分では思っていました。しかし知らないことは沢山あり、テレビや新聞では報道されない現状を受け止め、真実に向き合っていくことを思われました。2017年、米軍の部品が保育園の屋根に落下した事故について保育者や母親たちが「保育園の上を飛ばさないで」と防衛省に嘆願書を提出していますが、米軍が飛行前と後で足りない部品はないので落下物ではないと言ったことで「捏造だ」「自作自演だ」等と誹謗中傷の電話やメールが相次いだとのこと。この保育園では現在落下物防止策として園庭にシートを張っています。子どもたちが園庭で遊ぶ時、見上げてみても広い空は見えないのです。子どもたちのあたりまえの日常と健やかな成長を祈らずにはられません。

印象的だったのは、米軍の一人ひとりはいい青年ばかりだというお話です。勤務外での町で出会う彼らは優しく気さくな青年たちばかりだそうです。そして経済的な理由から米軍に志願する若者も少なくないそうです。米軍志願の裏に貧困や差別ということが秘められていることも知りました。

金井先生は「平和を守る」とは平和であることが前提とされており、守るために戦うことも否定できなくなると仰います。この言葉は衝撃的でした。平和を守るという考え方からは戦争を防ぐことができないのです。一方で「平和を作る」は平和のない所に平和を作り出す為、そのこと自体が平和的であり、非暴力でできないことだとも仰いました。お話を伺った8月から3か月ほど過ぎた今、わたしたちの国は「国防」に、より力を入れるべく突き進んでいます。そのことがどれほど危険なことかと思わされる日々です。私たちはどこまでも非暴力で平和を作り出すものでありたいと強く思います。後半は青年の集いにおいて金井先生は未来のある若者たちと共に更に語りと学びを深めてくださいました。

青年たちの屈託のない率直な意見にも丁寧に対応して下さった金井先生の心の根底に「平和を作り出す」思いが込められていることを思い、感謝ばかりです。その他、2020年に行われた「ナルドの献金に関するアンケート」の集計結果の報告を頂き、教区の小さな教会や伝道所に想いを馳せました。信徒運動として始まり、関東教区が長く続けてきた活動に想いを新たに、今後の継続と発展を祈ります。

新潟水俣病は終わっていない

横山由美子（宣教部委員・東中通教会）

9月18日 新潟教会 対面16名&オンライン43名
19日 新潟水俣病資料館フィールドワーク14名

コロナ禍にあり、2年の延期を経て実現した企画です。祈り続けて準備して下さった新潟地区委員、参加された皆さんに感謝し、報告いたします。

研修1「新潟水俣病患者と共に歩んだキリスト者・坂東克彦さん」と題し、川村邦彦さん（新潟教会員）から話していただきました。新潟水俣病訴訟の弁護団幹事長や弁護団長も務めた弁護士である坂東さん。傍らで寄り添っていた川村さんから、受洗に至るまでの苦悩されていた事々も含めて伺うことができました。日本初の公害・足尾銅山事件で国に問題提起した田中正造を尊敬していたことが、主に招かれる伏線だったのだと話されました。4大公害病で初めて原因企業を訴え、昭和電工の過失責任を認めさせた功績は大きいものでした。しかし、高齢化する被害者救済のための実利をとった和解に応じることに異を唱え（被害者には全く落ち度がないので和解はふさわしくないこと）、国家の責任を追及すべきとの信念を貫かれました。

研修2「新潟水俣病は終わっていない—被害者の現状と裁判への支援のお願い」新潟水俣病阿賀野患者会事務局長の酢山省三さんから新潟水俣病の説明と裁判の現状について話され、署名の訴えもされました。患者である五十嵐美智子さん（70歳現役看護師）からは、結婚するまでははっきりさせない方がよいと親の気持ちもあり認定する機会が遅くなったこと、料理を作っても味がよくわからずにいたなど、他者にはわかりにくい症状があると話されました。身近な本町市場で炉端焼きが売られていたのを思い出し、五十嵐さんは私だったのかもしれないと、自らに引き寄せて考えることができ感謝でした。

研修3新潟水俣病資料館では、当時のニュースなどを映像で学び、その後、語り部の水澤洋さんの講演を拝聴しました。話の最後に「水俣病に恨みはない。素晴らしい人たちとの出会いを与えてくれたから。」そのような心境になられたきっかけを教えてとの質問に、「孫が生まれた時です。」と話され、私は涙を抑えることができずでした。いのちの賛歌が主の恵みとして響いてきたからです。

あらゆる差別のない社会を創り出したいと祈ります。

実体・事実を知ることから…

玉置 千鶴子（長岡教会）

1日目は新潟教会を会場に新潟水俣病訴訟の弁護団長をされており、2020年に召天された坂東克彦弁護士の姿や思いを皮切りに新潟水俣病阿賀野患者会事務局長より新潟水俣病について、また当事者より新潟水俣病の差別の実態や自身の体験・症状などについてお話を伺い、2日目は福島潟にある新潟水俣病資料館で語り部によるお話と資料の説明を受けました。

新潟水俣病は1964年頃、昭和電工鹿瀬工場のメチル水銀を含んだ排水による水質汚染・食物連鎖濃縮によって貴重なタンパク源として阿賀野川流域で魚を取って保存食やおやつ代わりなど日常的に口にしてきた人々が発症しました。語り部の方は小学6年生頃に手足口の痺れや頭痛といった形で発症し、60近く症状と付き合いながら歩んでいるとのことでした。当時、学校に行けない日々を過ごし卒業証書に「君の怠け癖は直らなかったね」と記されたといいます。そのような日々の中で自分のことを思い優しい言葉をかけてくれた人の存在や言葉を受け止めることさえ出来なくなっていたといいます。そのような振り返りの中で「差別や偏見に苦しんだ一方で大切な気づきや出会いをくれた新潟水俣病のことを自分は恨んでいない。でも昭和電工と国の責任・謝罪・保証は強く求めている」とのことでした。また事務局長は「実体を知ってもらうことが大切だと考えている。なぜなら事実に基づけば差別や偏見はなくなるからだ」と言われていました。多くの患者さんが無理解から来る心ない言葉に傷つき、それゆえに自身や家族が患者である・患者かもしれないと口にすることが長らく出来なかった故にそれぞれのタイミングで検査・公表をしたりという中で今第5次訴訟が行われているとのことでした。

資料館は無料で開放・多くの資料を提供しており、語り部によるお話も事前予約で聞くことができます。「実体を知って欲しい。そのことを通して新潟水俣病はもちろんのこと、あらゆる差別や偏見をなくしていきたい」との強い思いを受けて考えさせられる2日間でした。

宿泊・遠方からの会場参加がまだ難しい中にありましたが、資料館横にはコテージ等の宿泊施設もあります。皆さんもぜひ個別に出会いと学び、そして豊かな自然の中での癒しに足を運んでみられてはいかがでしょうか。最後に…長らく延期されていた社会活動協議会が開催されましたこと、現地や宣教部委員の皆さんのお働きに感謝します。

部落解放だより

No. 60

2022年12月11日

関東教区部落解放推進委員会

発行人代表 栗原 清

埼玉県入間市河原町 8-6

武蔵豊岡教会

連絡先 tel 04-2962-6191

郵便振替 00140-3-67727

加入者 日本基督教団関東教区

— 2期目委員長就任にあたって—

「部落差別の課題をみなさんと一緒に担って参りたい」

関東教区部落解放推進委員会委員長
(埼玉地区) 武蔵豊岡教会牧師 栗原 清

第69回総会期(2019年度)から教区総会が開催されなかった第70回総会期(2020年度)の部落解放推進委員会の委員長として拝命を受けました。この間、新型コロナウイルスによる感染防止対策の関係で、対面での委員会活動が出来ず、事実上は活動停止状態を余儀なくされました。

第71回総会期(2021年度)も教区総会を開催する事が出来ずにいましたが、第72回総会期(2022年度)は、三年ぶりに教区総会が開催され、引き続きこの委員会に任じられたことで、委員長を継続して務めさせていただくことになりました。

しかしながら、個人的にはこの委員会の責任を負う者として相応しい者ではありません。それは、部落解放の課題をこれまでも積極的に受け止めてこなかったからです。

私は埼玉県川越市に生まれ、幼少期に隣町の狭山市で狭山事件が起こり、大人達はその話をしているのを耳にしたことがありましたが、その本質に触れることはありませんでした。青年期になってはじめて、この狭山事件に関わりのない部落出身者の石川さんを犯人に仕立て上げた冤罪であることを知らされました。その支援のために署名などの協力をしましたが、近隣に居住していながら狭山事件に関わったり、学習したり、現地を訪ねる機会があったにもかかわらず、自分のこととして関わることはありませんでした。

その意味で、今回の教区部落解放推進委員会の責任を負うことで、部落差別問題に関わらせていただくことになりました。キリスト者として、主の教会に仕える者として、この課題を皆さんと一緒に

担って参りたいと願っています。

毎年、7月第2主日は、「部落解放祈りの日」として呼びかけられています。キリストによって、この地上に、まことの平和が実現することを信じ望みつつ、部落解放のための祈りを合わせていきましょう。どうぞ、よろしくお願いいたします。



狭山事件の再審を求める市民集会の様子：
10月28日(金) 東京・日比谷野外音楽堂

＜新委員の自己紹介＞昨年度と今年度に
この委員会に新しく加わった委員は4名です



石井わか委員、成田顕靖委員、盛合尊至委員

◇ 石井わか 委員(教区教会婦人会連合副委員長、埼玉・安行教会員)

コロナ禍のため 殆どメールでの会議や連絡の2年ですが、狭山事件の石川一雄さんの冤罪を晴らすためや理不尽な差別に苦しむ人のために多くの方が闘っていることを再確認いたしました。知り学んだことを社会に広げる大切さも痛感します。自分にできることで働かせて頂きたいと思います。よろしくお願いいたします。

◇ 成田顕靖 教師部委員長 (新潟・高田教会・新井教会牧師) :

全く思いがけず、中継ぎで1年間務めることになった教師部委員長として、この委員会に任じられております。2015～2016 年度にも委員でしたので、この度、2 回目となります。全くの門外漢ですが、残り半年間どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

◇ 盛合尊至 委員 (新潟・信濃町教会牧師)

昨年度より新潟地区の同宗連担当として奉仕させて頂いておりますが、日々部落差別問題を勉強しながら活動しております。地域よりさらに広い範囲での活動に戸惑いつつも、いろいろな刺激を感じながら奉仕させて頂ければ幸いです。

◇ 平澤 昇委員 (埼玉・埼玉新生教会牧師)



私にとって部落差別は、中学生の時に観た映画「橋のない川」との出会いから始まり、考えさせられました。身近な生活の中で、四本指を出して「あそこには行かないように」と言われたこともありまし

た。世界で一番根の深い差別は、日本の部落差別だと言われます。「寝た子を起こすな」との考えから、見ない知らないふりは止めたいですね。

部落解放センター活動献金のお願い

部落解放センター活動献金を今年もよろしくお願ひします。

部落解放センターは、教団が全国的に部落差別問題に取り組んでいくために、1981年11月8日に開所しました。そして、1990年11月の第26回教団総会で、教団の機関として教規に位置づけられました。それ以降、部落解放センターの職員は教団の職員として処遇されましたが、一方で、活動のための資金は教団の諸教会伝道所が支えることとなっています。部落解放センター活動献金に加わることは、全教団的取り組みに私たちも加わることです。今年度もぜひ活動献金にご協力くださいますようお願いいたします。

部落解放センター運営委員 飯塚拓也

祈りが聞き届けられるために

群馬・太田八幡教会員 安田 耕一

全国水平社が創立されて100年。商業紙もその意義をキャンペーンした。部落問題は非差別部落(差別を生み出す社会)の価値観への「同化」を目指すものではない。水平社宣言で謳う「人類最高の完成を期す」とりくみは、言い換えれば「神の国」の実現にむけた私たちの応答であると思ってきた。

教団が部落問題をとりくむきっかけは、教団内にある差別への指摘だった。決して自発的なとりくみではなかったことに思いを馳せるべきだろう。はたして、教団・部落解放センター創立40年がたった現在、その指摘はどこまで克服されたのか。

かつて関東教区でおこなったアンケートには教会内には「静かにすごしたいと思っている人もいる」と暗にとりくみを批判する声もあった。あるいは、いまだに被差別部落は同情すべき存在であると考えている人もいる。また、「もういいのではないか」という声も漏れ伝わる。いったい差別からの「解放」とは何か。それぞれがイメージする姿があまりにも異なっていたのかもしれない。

一度も学びの機会を得られないままの教会もある。それでも部落解放のとりくみは教会内の小さき人々への気づきを不可避にしてきた。差別と抑圧、生きづらさを持ってきたマイノリティの人たちは、「ひげ目」や「罪悪感」への慰めにとどまらず、神の言葉に励まされながら、ひとつの流れを生み出してきたと信じる。

沖縄の問題も沖縄だけの問題ではない。LGBTの人たちも世間以上に教会では忌避されてきたのではなかったか。それでも「潤れずにあった人間の血」(水平社宣言)が、声を上げつづけることを励ました。気づかぬ他者のために祈りを合わせる事。そこには聞き届けられることを望む者たちの痛みと祈りの声があたしかに聞こえると信じた。 Ω

関東教区部落解放推進委員会委員の連絡先

委員長	栗原 清	04-2962-6191
宣教部委員長 (兼 部落解放センター運営委員)	飯塚 拓也	0297-64-3768
教師部委員長	成田 顕靖	025-523-7009
新潟地区	盛合 尊至	025-231-4868
群馬地区	川上 盾	027-231-3623
栃木地区	大下 正人	090-4459-5450
茨城地区	山本 安生	0299-82-9169
埼玉地区	平澤 昇	048-852-1379
教会婦人会連合	石井 わか	048-256-6685
協力委員	丹波二三夫	090-7706-7402